

あなたの身近にいつも…アキレス

Achilles



アキレスのCSR 2016

トップメッセージ

私たちが目指すもの、 それは、企業に社会に未来に、 新たな価値を創り続けていくことです。

アキレスのCSR活動方針は企業理念の精神です

アキレスグループは創業以来、プラスチック加工技術の向上・進化に努め、お客様の身近にある製品に独創的な価値を加えて、より豊かな社会の実現に貢献してきました。「社会との共生」＝「顧客起点」を企業理念とし、お客様の声に真摯に耳を傾け、真の満足と感動を戴ける製品やサービスの提供を通じて社会に貢献することを目指しています。2016年3月期の連結業績は、原油安による原材料価格の低下の一方で、国内消費の低迷などの影響から、減収増益となりました。新たな価値を創り続け、持続的な成長を果たすために、基本に立ち返り、お客様の声に真摯に耳を傾け、顕在的・潜在的ニーズを把握し、そのニーズに迅速に応えることを徹底し、お客様の満足向上に努めます。

さらなる飛躍に向けて

2015年度より新たな中期経営計画をスタートさせました。各事業における強みを掘り下げ、用途展開や市場創造を積極的に推進し、企業価値を高めていきます。人財育成に注力し、全員参加型のイノベーションを起こしたいと考えています。アキレスのコア事業には、環境対応製品、健康支援製品があり、国内のみならず、海外市場においても、事業を通じて社会的課題の解決に貢献できる余地が十分あると考えています。

国内では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、インフラ整備が進められていますが、発泡ウレタンの技術は、断熱材として使用すれば省エネによる温暖化対策に効果を発揮し、老朽トンネルの空洞充填材として使用すれば工事の省力化が図れます。

また、農業用の生分解性フィルムは地中の微生物で分解されるため、使用後の廃棄物処理が不要となり、農家の負担が軽減されます。ゴミの問題は農業だけではなく、さらなる用途展開が可能と考えています。これら以外にも、当社のコア技術が役立つ分野が多々あり、製品やサービスの提供を通じて、積極的に貢献していきたいと考えています。

社内において重要課題（マテリアリティ）の 特定を行いました

2015年度は会社法の改正やコーポレートガバナンス・コードの施行が始まるなど、企業のガバナンスに対する社会的要請が制度化されました。しかしながら、ガバナンス以外にも、企業が社会から要請されていることは多岐にわたっています。企業が社会や環境に与えている影響の中には、良いものもあれば、

悪いものも存在します。そこでアキレスグループでは、CSR活動をグループ内に浸透させ、より実効性を上げていくことを目指し、2015年度にISO-26000に基づき、グループ内において重要課題（マテリアリティ）の特定を行いました。今後、特定した課題について社外の客観的なご意見も確認し、各課題に対し活動目標と測定指標（KPI）を設定し、目標達成のための体制整備を進めていく予定です。

世代を超えて幸せをつなぐ確かな品質

海外のお客様から嬉しいお便りを頂戴しました。30年前に当社が販売した子ども用の長靴を、親子2代にわたり使用されているというものでした。写真も添えられていましたが、30年前の製品とは思えないほど綺麗な状態で、今もご使用されているとのことでした。長年にわたるご愛顧に感謝するとともに、世代を超えて愛されている当社製品に誇りを感じました。未来の従業員に同じ感動を届けるために、私たちは、信頼されるブランド製品の提供を続けていきます。

2016年9月



代表取締役社長

伊藤 淳

企業理念

「社会との共生」=「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

アキレスのCSRの基本的な考え方

私たちが目指しているもの

それは、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。そして、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社でありたいと願っています。

私たちアキレスグループは「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、持続的な成長と企業価値の創造・増大に努めています。私たちを取り巻く社会環境は、世界経済のグローバル化、地球環境保全への対応、日本をはじめ世界各地で多発する自然災害の猛威など、経験したことのないようなスピードで変化しています。このような社会環境の変化のもと、豊かで快適な社会づくりに、アキレスグループはどのような貢献ができるのか、真価が問われています。

私たちは創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案してまいります。

私たちが大切にしているもの

それは、元気に育ってほしい、いつまでも元気でいてほしいという「健康」、暮らしやすい住環境にしたいという「快適さ」、使ってみて楽しいという「楽しさ」、もっと資源を大切にしたいという「省エネルギー」をキーワードに、新たな価値の増大を追求するため知恵と工夫で製品・サービスを創造し、お客様のご要望にお応えし続けたいという思いです。

豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けるため、たゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待にお応えしてまいります。

アキレスのCSR重要テーマ

2015年度、アキレスではCSR活動のステップアップを図るため、ISO-26000を活用し、CSR活動の現状把握ならびに課題抽出、認識の共有を行いました。CSR関連の主要部署が集まり、7つの中核主題ごとに活動を洗い出した上で、自社にとって重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」として策定しました。

「消費者課題」

1

製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供

製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します

「環境」

2

環境への取り組み

CO₂、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組めます

「公正な事業慣行」

3

取引先との協働

取引先を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します

「人権」と「労働慣行」

4

人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成

人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します

「人権」と「労働慣行」

5

安全で働きやすい健康的な職場環境

安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組めます

「コミュニティ参画・発展」

6

地域との関わりと社会貢献活動

地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します

「組織統治」

7

ガバナンス・リスクマネジメント

経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組めます

事業内容

シューズ事業部門

シューズ事業部

キッズ、メンズ、
レディース
シューズ



プラスチック事業部門

車輻資材事業部

車輻内装用資材、
一般塩ビレザー、
合成皮革など



化成品事業部

一般用・工業用・
農業用フィルムなど



建装事業部

住宅用内装資材



引布販売部

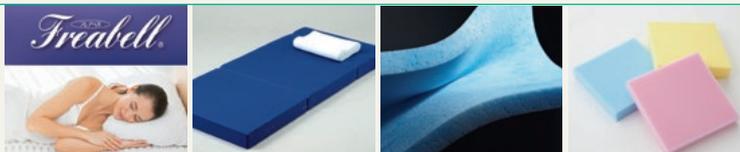
防災テント、ボート、
住宅排水管用
フレキシブル
ジョイントなど



産業資材事業部門・開発営業部

ウレタン事業部

軟質ウレタン
発泡製品、
および2次加工製品



断熱資材事業部

硬質ウレタンフォーム
断熱製品、
現場発泡用硬質
ウレタンフォームなど



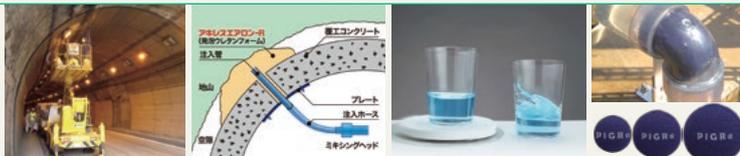
工業資材販売部

静電気対策製品、
反応射出成形品など



開発営業部

「アキレス
Tn-p工法」など
インフラ関連技術



チーム・プロジェクト

STEPプロジェクト

独自の無電解めっき処理技術
「STEP」を用いた透明電極



沿革

1947年 5月	資本金2,000千円をもって興国化学工業株式会社を設立、本店を東京都中央区日本橋とし、工場を足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始
1948年 4月	塩化ビニール製品の製造、販売を開始
1956年 6月	大阪市に大阪支店(現・関西支社)を開設
1957年 4月	足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設
1962年 4月	ウレタン製品の製造、販売を開始
1962年 9月	東京証券取引所市場第一部上場
1963年 1月	当社独自の合成皮革(カプロン)の製造に成功、販売を開始
1965年11月	ニューヨークに現地法人アキレスK.C.I. Corp.を設立(1978年11月解散)
1969年 7月	足利第二工場を建設。車輻内装材と硬質ウレタンシェル等産業資材部門製品の製造に着手
1973年 3月	壁紙分野へ進出
1973年10月	滋賀県豊郷町に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設、ウレタン工場稼働
1973年11月	米国ワシントン州にKOHKOKU USA, INC. (現・連結子会社ACHILLES USA, INC.)を設立
1974年 8月	北海道美唄市に美唄工場を建設、ウレタン工場稼働
1978年11月	滋賀アキレス株式会社より生産設備を譲り受け、当社滋賀第一工場として稼働
1981年 6月	アキレスマリン株式会社(現・連結子会社)を設立
1982年 2月	商号を変更しアキレス株式会社とする
1989年 1月	福岡県飯塚市に九州工場を建設
1992年 1月	中国に広州崇徳鞋業有限公司(現・連結子会社)を設立
1993年12月	中国に合弁会社昆山阿基里斯人造皮有限公司を設立
1998年12月	導電性素材「STポリ」の生産を開始
2002年10月	中国に阿基里斯(上海)国際貿易有限公司(現・連結子会社)を設立
2008年 2月	台湾に阿基里斯先進科技股有限公司(現・連結子会社)を設立
2015年 2月	本店を現住所に移転
2015年 7月	山形アキレスエアロン(株)を設立

数字で見るアキレスグループ

2015年度の取り組み実績

アキレスグループの2015年度の年間実績について、ご紹介します。



研究開発費

14.8億円

- 新商品の上市に向けた基礎・応用の研究開発
- 性能向上、コストダウンに向けた新技術の開発
- 環境・省エネ対応化技術の開発
- 新事業に結びつく新テーマの市場・技術・特許調査

取引先企業数

約1,000社

- 原材料の品質管理
- 品質向上に向けたお取引先様との協働
- CSR活動の拡大



調達・購買

生産

世界の製造拠点数

16拠点

- 地球温暖化対策を含む環境配慮につながる活動推進
- 資源の有効活用
- 5S活動の推進

品質管理

国内製造拠点
ISO-9001取得数

12拠点

- 国内製造拠点すべてにおいてISO-9001を取得
- 品質保証の維持・向上

廃棄・リサイクル

国内グループの
廃棄物リサイクル率

99.95%

- 3R*活動を通じて環境負荷低減を推進
*廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、使用済み製品などとしての再利用(リサイクル)

連結売上高

883億円

- 親会社株主に帰属する当期純利益 **25億円**
- ROE(自己資本利益率) **5.8%**

物流

輸送のモーダルシフト*率

16.8%

- モーダルシフトの拡大と輸送効率化を推進

*貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています



お客様相談室への
年間お問い合わせ件数

5,426件

- ご意見 897件
- その他お問い合わせ 4,529件

お客様との
コミュニケーション

販売

瞬足の年間
売上数
(2015年度実績)

526万足

- ご愛顧いただき累計販売足数 5,700万足を達成



各事業場での取り組み

アキレスは全国各地に生産・販売の拠点を展開し、地域社会の一員として地域の発展、環境負荷低減、製品やサービスを通じて社会的課題を解決することなど、企業の社会的責任を重視した経営に取り組んでいます。

アキレスUSA



オープンコミュニケーションを活用

ACHILLES USA, INC. Michael Burrows

安全で健康な労働環境はチームワーク、トレーニング、オープンなコミュニケーションが鍵になると考え、毎月の安全ミーティングで従業員がアイデアを出し合い、グループで改善しています。また毎月タウンホールと呼ぶミーティングを開き、安全やポリシーの研修、会社状況などを従業員にシェアしています。オープンなコミュニケーションの場を設けることで、従業員一人ひとりの声が生かされ、会社に貢献し、より良い労働環境につながると考えます。



一人ひとりのアイデアで労働環境を改善しています



アキレス 滋賀第二工場

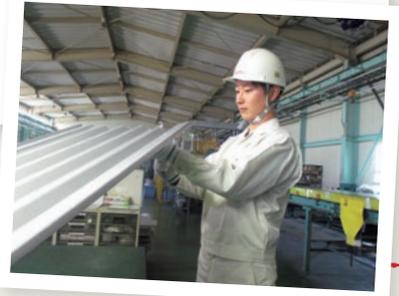


畜舎用パネルで鶏のストレス対策

滋賀断熱資材工場 技術課 井宏一郎

サイディングボードや畜舎用金属パネルを生産しているパネルラインで技術を担当しています。農畜産用断熱材「アキレストリトンシリーズ」は、主に鶏のヒートストレス対策として鶏舎断熱材に広くご採用いただき、「鶏の育成率や採卵性の向上で、鶏肉や卵の安定供給に寄与しているぞ!!」と、時折スーパーで微笑みながら自己満足。やりがいを感じています。

鶏肉や卵の安定供給に寄与していることにやりがいを感じます



アキレスUSA
(米国シアトル市)



WORLD

アキレス
九州営業所
(福岡県福岡市)



アキレス 九州営業所



生分解される農業用マルチフィルム

九州営業所 プラスチック販売課 佐藤 和也

使用後、土にすき込むだけで生分解され産業廃棄物にならない、環境にやさしく廃棄作業が楽な農業用マルチフィルム「ビオフレックスマルチ」の普及に努めています。また、生分解性樹脂の特性を生かした商品をいろいろな場所や用途で使っていただきたいと思い、さまざまな業種の方々と意見交換を行っています。

生分解され環境にやさしい農業用マルチフィルムです



アキレス大阪ビニスター



患部に負担を掛けない肩用装具

アキレス大阪ビニスター 販売二課 武田 静彦

肩関節の術後の疼痛予防、患部固定のための装具が、医療分野で活用されています。その装具の形状を空気圧で調整する「エアバッグ」を手掛けています。形状をR型にし、患部にやさしく負担を掛けず、素材の丈夫さや空気漏れがしにくいことが認められ、お客様に採用されました。今後もお客様のご要望に応える製品づくりと社会への貢献を目指します。



エアバッグ



肩用装具

山形アキレスエアロン

自然豊かな町で まごころを込めて



社会と
共に

山形アキレスエアロン 岩城 誠

山形アキレスエアロンは、2016年2月から本格的に操業を開始しました。世界に二つとない「編み機」を使い、独自のものづくりができることに従業員一同大きく夢を膨らませています。自然豊かな町で育ったおらかさと明るい笑顔をもつ地元出身者を中心に、まごころを込めて製品を作っています。お客様を笑顔に変える。その気持ちが、会社の未来、そして地域の発展につながっていくものと信じています。



従業員は
地元出身者が
中心です

北海道アキレスエアロン (北海道美唄市)



山形アキレスエアロン (山形県最上郡金山町)



アキレス 足利第一工場 (栃木県足利市)



アキレス本社 (東京都新宿区)

アキレス 大阪ビニスター (大阪府東大阪市)

アキレス 滋賀第二工場 (滋賀県犬上郡豊郷町)



北海道アキレスエアロン

安全な水性タイプの 接着剤を使用



環境の
ために



社会と
共に

北海道アキレスエアロン 富樫 賢二

マットレスなどの生産工程ではウレタンフォームの接合に接着剤を使用していますが、有害な化学物質を含まない水性タイプのものを使用しています。これは、お客様の安全衛生への配慮と合わせて、製造現場で作業する私たちにとっても安全で安心な職場環境の整備につながっています。また、環境に配慮し、原材料使用においては歩留まり向上に努め、廃棄物削減にも取り組んでいます。



安全で安心な
水性タイプの接着剤を
使用しています

アキレス 足利第一工場

子どもたちに 安全・安心な靴を履かせたい



社会と
共に

シューズ事業部 企画開発部 内藤 有香

瞬足レモンパイの企画・デザインが私の仕事です。子どもたちが安心して履けて、「可愛い!」「かっこいい!」と思ってもらい、「速く走りたい!」という夢を具現化するため日々開発業務に取り組んでいます。今では瞬足ブランドも、瞬足・瞬足レモンパイ、そして足育シリーズと広がり、累計販売足数 5,700万足を達成しました。これからも市場の声に耳を傾け、魅力のある高品質な足にやさしい、そして、子どもたちに夢を与えられる靴を作り続けていきたいと思っています。



子どもたちに
夢を与える靴を
作り続けたい

アキレス 本社

走る喜びを伝える「瞬足陸上教室」



社会と
共に

シューズ事業部 商品部 市川 陽一

私たちは「瞬足陸上教室」を毎年全国各地で開催し、2015年度で9回となりました。子どもの足にあった正しい靴の選び方や足の使い方など、順天堂大学 大学院スポーツ健康科学研究科 バイオメカニクス研究室の柳谷准教授にご指導いただきながら、子どもたちが、「健康で楽しく走る喜び」を感じてもらうお手伝いをしています。

子どもたちに健康で
楽しく走る喜びを伝えます



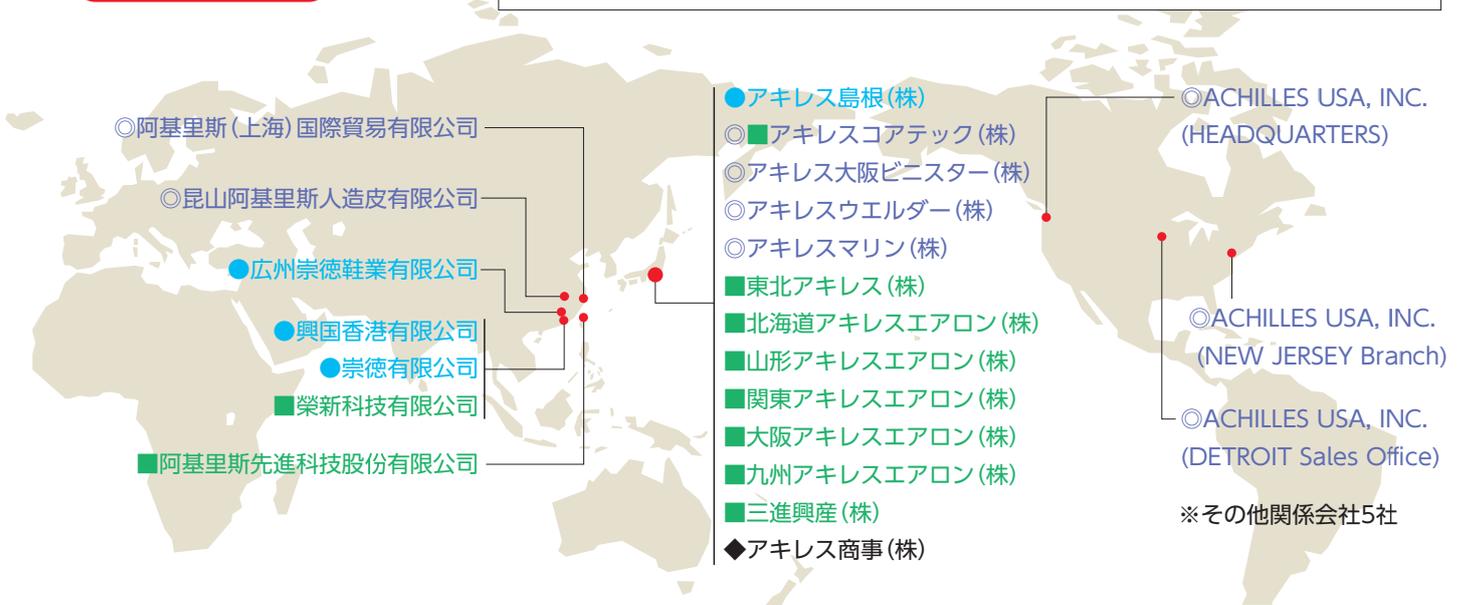
会社概要

設立 1947年5月
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守
 資本金 146億4千万円
 従業員数 1,512人(国内グループ) ※2016年3月末
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)
 本社 〒169-8885 東京都新宿区北新宿 2-21-1
 新宿フロントタワー

関西支社 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 2-2-7
 中之島セントラルタワー
 営業所 北海道/仙台/新潟/北関東/東京/大阪/
 広島/九州
 駐在所 名古屋(ウレタン)
 工場 足利第一/足利第二/滋賀第一/滋賀第二/
 美唄/九州

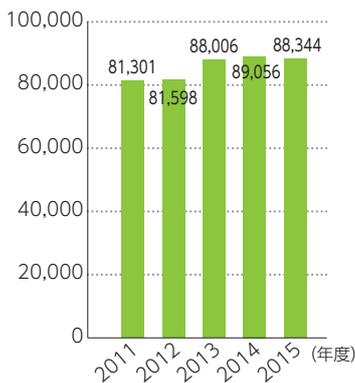
グループ会社

●…シューズ事業部門 ○…プラスチック事業部門 ■…産業資材事業部門 ◆…その他

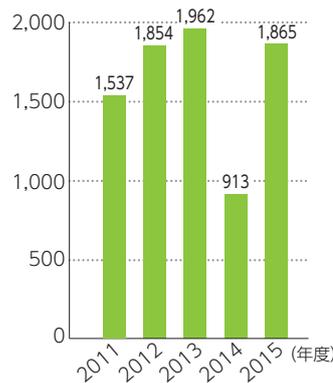


連結売上高・利益年度別推移

売上高(百万円)



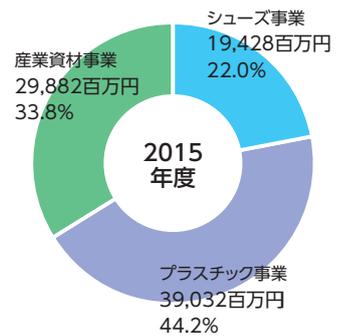
営業利益(百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益(百万円)



セグメント別売上高



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

CSR 報告ツールについて

詳細版



PDF詳細版では、アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、より詳細に紹介しています。

アキレスのCSR

検索

<http://www.achilles.jp/company/06/>

アキレスのCSR 2016 冊子版

発行日:2016年9月 発行:アキレス株式会社

お問い合わせ先

【コンプライアンス推進室】
 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1
 新宿フロントタワー
 TEL:03-5338-8232 FAX:03-5338-8250

【安全環境推進部】
 〒326-8511 栃木県足利市借宿町668
 TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854

